

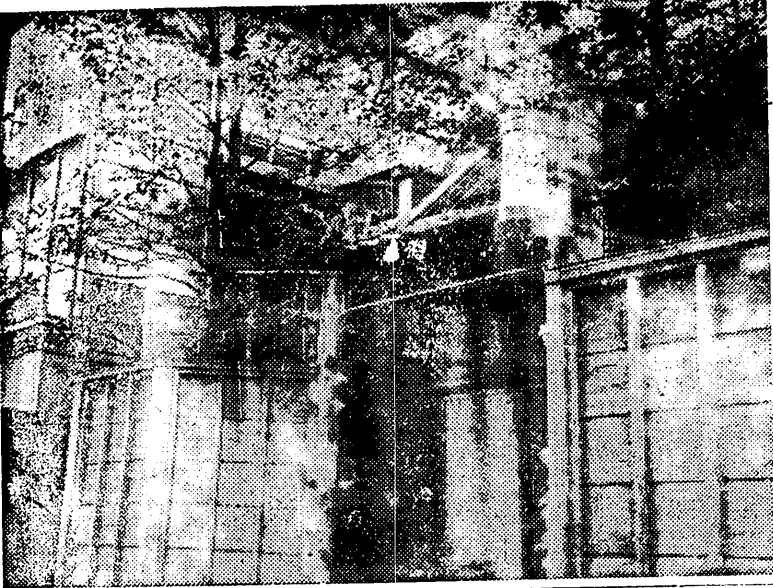
待合は我家も同様 殆んど毎日の藝者狂ひ

警察へ女將のお出迎へ 彼等の豪遊振を見よ!

待合「里の家」に於て、本年八月以來の彼等の遊興したる事實は左の通りである。

月日	遊興者氏名	藝者名	遊興金
八月三日晩	小林 龍次	あぐり	十三圓三十錢
同 四日晩	同 人	あぐり	廿四圓十錢
同 八日晩	小林、佐藤	小林は泊らずに 歸り他に泊る	六十八圓五十一錢
同 十四日晩	小林、外三名	あぐり自勇等	五十三圓八十八錢
同 十五日晩	小林、外二名	玉若、小千代	二十七圓〇五錢
同 卅一日晩	小林	あぐり共に	
九月廿日晩	小林、外四名	小林と森り三 名は泊る	五十七圓十九錢
同 廿五日晩	小林、佐藤	あぐり	廿七圓十錢

以上八月分の中、七十一圓四十三錢は未拂ひとなつて居り、小林が里の家に行き始めてより九月二十五日に至る迄の間の借金となつて居る。



「待合花の家」

在籍して居るもの合計は百五十五圓七十二錢である。

「里の家」曰く「小林さんは始終やつて來られるが、連れの方が泊つても泊らずに歸る事が多く、なじみとしても古くありません大體は「花の家」さんに行かれる様です」と。

次に待合「花の家」であるが、とても回数が多くて一々書き進らねるも大體であるが、昨年九月五日の晩以後、本年七月廿八日に至る迄、約三十回に及び、(同行人多い時は七人)其總額壹千五百六十壹圓四十壹錢現在、八十圓程借金になつて居る。

「花の家」曰く「私が山口さんなどの位ひ費ひ込みがあるのですと聞きましたら三千七八百圓だと申して居りました、小林さんは私の家ばかりでなく、ほらほらに行つて居る様ですからハッキリした事は分りません。小林さんが警察から出ると云ふので私も出迎に参りしました。お前さんと、お母さんと、工場から三人迎へに來て居りました、警察に居る時差入れも致しました」

「榮家」曰く「私の家へ小林さんが遊びに來られるのはおदन屋時代からで、その時には私の方から待合をお案内しました、その後私の方で待合を始めましたから、こちらにもお連れの人々とよく來て呉れました。今度の事では私も心配して居り、警察から出るときには出迎へに行きました、差入れも致しました、お金は三十円には必ず支拂つて置きましたから、勘定はその都度お貸し致しました、昨日までの位づつて置いたか、長い事よく知り兼ねますが、先日警察の方が來られた時は、メモ書してサツト七百圓と云ふて置きました。警察から小林さんが來られた時、待合の受取りは皆焼いてあるから大丈夫だと申して居りました。あの方は體裁も多勢呼びますから、誰がなじみかよく分りません」とこの榮家へ出入した連中は山口、田中、秋山等である。

ドロ幹一味告訴さる

去る十三日朝、堀に出動せんとした正義派の生澤龍三氏等が組合同盟の暴漢のため散られ重傷を負はされたことは既述の通りであるが之れに對し被害者生澤氏外七人は十四日左記十一名の醜類一味を悉く偽り罪として東京區裁判所に告訴状を提出した。

- 山口秀人 安平鹿一 秋山金次郎 關谷 博
- 田中庄三郎 山本某 田中信次郎 加藤勤十
- 荒川泰司 中村市三郎 成澤平馬